阪神・淡路大震災の記憶が哲ちゃんの背中を押した。

竹原 哲章
神戸市

2021（令和3）年6月1日、兵庫県神戸市兵庫区石井町に「神戸平野ふくろうの樹」がオープンした。社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会が運営する、兵庫県初の聴覚障害者に配慮したグループホームだ。まだ新築の匂いがするおしゃれなホームで、管理者の竹原哲章さんがソフトな神戸弁と優しい笑顔で出迎えてくれた。竹原さんは、高齢者福祉の専門学校を卒業すると、淡路島の特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」で13年間、高齢者介護に全力で取り組み、昨年、新たに誕生した「神戸平野ふくろうの樹」の管理者として赴任した。竹原さんが手話と出会い、福祉の道を志したきっかけは、阪神・淡路大震災だったという。竹原さんが小学生の時、お母さんが入っていたママさんバレーチームに聞こえない人がいて、その人から「手話を覚えてほしい」と言われた。竹原さんのお母さんは、一念発起して手話教室に通い、その後なんと手話通訳者になられた。手話通訳者として阪神・淡路大震災では災害現場で多くのろう者を支援された。聞こえないために不利益を被りやすい避難所で、お母さんは身を粉にして聞こえない人たちを支え続けたのだ。中学1年だった竹原さんは、お母さんと行動を共にするうちに、手話に感動し、福祉の道に進みたいと考えるようになった。

※グラビアページでは、写真撮影の瞬間だけマスクを外していただきました。

▶写真❶
「ふくろうの杜」食堂。就労継続支援B型事業として神戸市長田区で運営する食堂。ろう重複の仲間が心を込めて調理、接客をしてくれる。日替わりランチが大人気で地域にも根差している。「神戸平野ふくろうの樹」の入居者もここで働いている。

▶写真❷❸
安くておいしい手作りメニューが評判。日替わり定食も人気。

今日は、遠い過去と未来に繋がっている

友達の家が目の前で倒壊していく瞬間を見た竹原さん。自宅も被災し避難所で生活しながら、手話通訳者としてエネルギッシュに支援活動をするお母さんに同行することとなった。「聞こえないことは、災害時には大きなハンディになります。緊急情報が伝わらない、救援物資の配給に気付けないなどがあります。過酷な状況の中で、困っている人は自分が助けるという母の強い信念と、手話の素晴らしさに衝撃を受けました」。震災後、竹原さんも手話通訳技術を身に付け、聞こえない人との関係が深まっていった。就職した特別養護老人ホーム「淡路ふくろうの郷」では高齢の聴覚障害者から優生保護法で子供が産めなかった悲しい体験を聞いた。現在は、過去の人たちの苦しみや悲しみの上にある。そして現在の自分たちの行動は、未来に繋がっていくことを痛感したと竹原さんは言う。

▶写真❶❷
グループホーム「神戸平野ふくろうの樹」。2021（令和3）年６月にオープン、モダンな建築デザイン。

▶写真❸
竹原さんと同僚の長澤理佐子さん。同様のグループホームを兵庫県全域、全国各地に広げたい。そのためには「神戸平野ふくろうの樹」を絶対に成功させたいと抱負を語る。

▶写真❹
リビング。年齢、生活パターン、障害もさまざまな入居者が一つ屋根の下で、自分の成長や夢の実現を目指して共同生活する。グループホームは巣立っていくための家だという。

グループホームは、一人一人が自分の夢を叶え、巣立っていく所

グループホーム「神戸平野ふくろうの樹」には、24歳から69歳まで10名の利用者が入所している。アパートを建設予定だった土地に、放課後等デイサービスを運営する地主の娘さんが、この町に障害者のグループホームを造りたいと提案。特定非営利活動法人神戸ろうあ協会や就労継続支援B型事業所の施設を運営する法人、地主さんらの思いが一つになり、子供から高齢者までの聴覚障害者に配慮したグループホームが誕生することになった。「奇跡のような出会いでした。特別養護老人ホームの勤務経験もあるからと、本プロジェクトに設計段階から参加させていただき、感謝しかありません」。グループホームは、一つの家族であると同時に、一人一人が自分の夢を叶え、自立し巣立っていく場所だと竹原さんは言う。「自分がおらんようになったら、子供たちはどうなるんやろ。これが親御さんたちの本音です。実際に1年の間に2人、お父さんが亡くなられたのですが、『神戸平野ふくろうの樹』が支えることができました。まだ課題もありますが、『神戸平野ふくろうの樹』を必ず成功させなければなりません」。竹原さんは強い決意を見せる。それが、聴覚障害者に配慮したグループホームとして、今後兵庫県全域への拡大に繋がると考えているからだ。

▶写真❺
キッチンからはリビングが見渡せる。

▶写真❻
キッチンの当番表。

▶写真❼
手すりを完備したバリアフリーの浴室。

娘は、頼もしい言語力の持ち主
日本語と手話のバイリンガル

「仕事場ではグループホームの将来を熱く語る竹原さんですが、実は子供と遊ぶのが大好きな、子煩悩なお父さんです」。同僚の長澤理佐子さんは竹原さんをこう評す。竹原さんは「神戸平野ふくろうの樹」に赴任するまでは、全通研兵庫支部の運営委員やN-Actionひょうごのメンバーとして多忙な日々を送っていた。過密日程の時も、いつも穏やかで自然体で困った人に寄り添ってくれる人…。神戸の哲っちゃんは、仲間や利用者から慕われている。竹原さんにとって手話は生活の一部だ。「淡路ふくろうの郷」で出会い結婚した妻の寛子さんは、ご本人もご両親も聞こえないことから日常生活に手話が欠かせない。小学2年生のお嬢さんは、日本語と手話を器用に使い分けるバイリンガルだと竹原さんは笑う。目下、趣味で熱中しているのが、自宅の庭づくりと庭キャンプ。休日には家族や友人と一緒に身近なアウトドアライフを楽しんでいる。グループホーム「神戸平野ふくろうの樹」は、今年オープン1年を迎えたばかり。これからどのように成長・発展していくか、管理者の竹原さんの経験力・人間力と溢れる情熱が期待を集めている。

写真／文　佐藤 篤

▶写真❶ 七五三の記念写真。明るい笑顔が素敵な竹原さんご一家。
▶写真❷ 庭でのアウトドアを家族や友人と楽しんでいる。ピザ釜で本格的な味を追求。
▶写真❸ コロナ禍で遊びに行けなくなった時に、組み立てキットの遊具を自作。近所の子供たちにも人気。
▶写真❹ 福祉に情熱を燃やしてきたお母さんの竹原美智子さん。阪神・淡路大震災では被災地で聞こえない人の支援に奔走。「淡路ふくろうの郷」の建設運動でも先頭に立って活動。（写真中央が美智子さん）